

第17回高山駅周辺地区まちづくり協議会

日 時 平成27年2月24日(13:30～)

場 所 高山市役所 3階 行政委員会室

1. 開 会

2. 副市長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 議 事

報告事項

○高山駅東西口駅前広場整備について

協議事項

○自由通路内装の整備(案)について

5. 閉 会

Memo

高山駅 東西口駅前広場整備について

■駅前広場の位置づけ

駅前広場は、駅と一体となり高山のメイン・エントランスとなる"顔"であり、世界から観光客が訪れる街の玄関口にふさわしいもてなしの空間として位置づけられます。

駅舎の橋上化に伴い東西広場を結ぶ自由通路も整備されることで、駅の東西が一体的に位置づけられます。広場整備においても東西で基本的に同じ素材、デザイン方針で整備を行います。

■社会の資産

駅前広場をつくるということは百年の計に耐えうるものであることが求められます。厳しい気候風土に耐える堅牢さと、長く愛される意匠を兼ね備えた建築・広場とします。

■西口駅前広場

西口広場は機能的に必要な要素が広場の大部分を占めることとなります。今後広場隣接地がどういった性格付けの場所になるかによって、西口広場の位置づけ、考えを進展させることができると考えています。将来的な整備にも柔軟に対応できるベースをつくることを考えています。

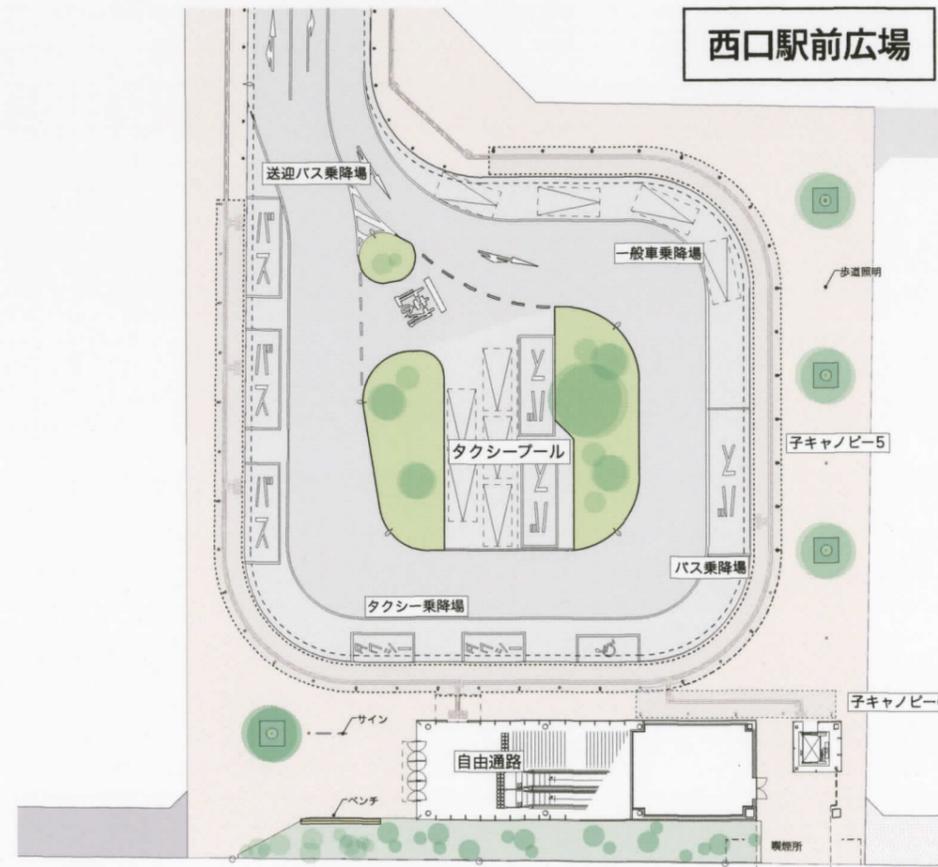
■東口駅前広場

約30m×34mの回廊を設けることで、駅前に象徴的な場をつくる計画とします。観光都市ということで、おもてなしをする、迎える空間としての囲われた場所を考えています。回廊を造ることにより、一つの駅前としての領域を作るということを意図しています。回廊内には水盤、シンボルツリー、観光案内所が設けられ、静謐な空間を目指します。

■再生可能エネルギーの利用

再生可能エネルギーを積極的に利用する計画とします。これにより再生可能エネルギー利用を推進する高山市の玄関口にふさわしい計画とします。

- ・駐輪場屋根に太陽光発電パネルの設置
→広場の電気利用
- ・観光案内所の換気に地中熱を利用したアースチューブ利用
→空調負荷の低減
- ・広場の消融雪設備に、温度差熱を利用する地下水利用
→熱源エネルギー低減

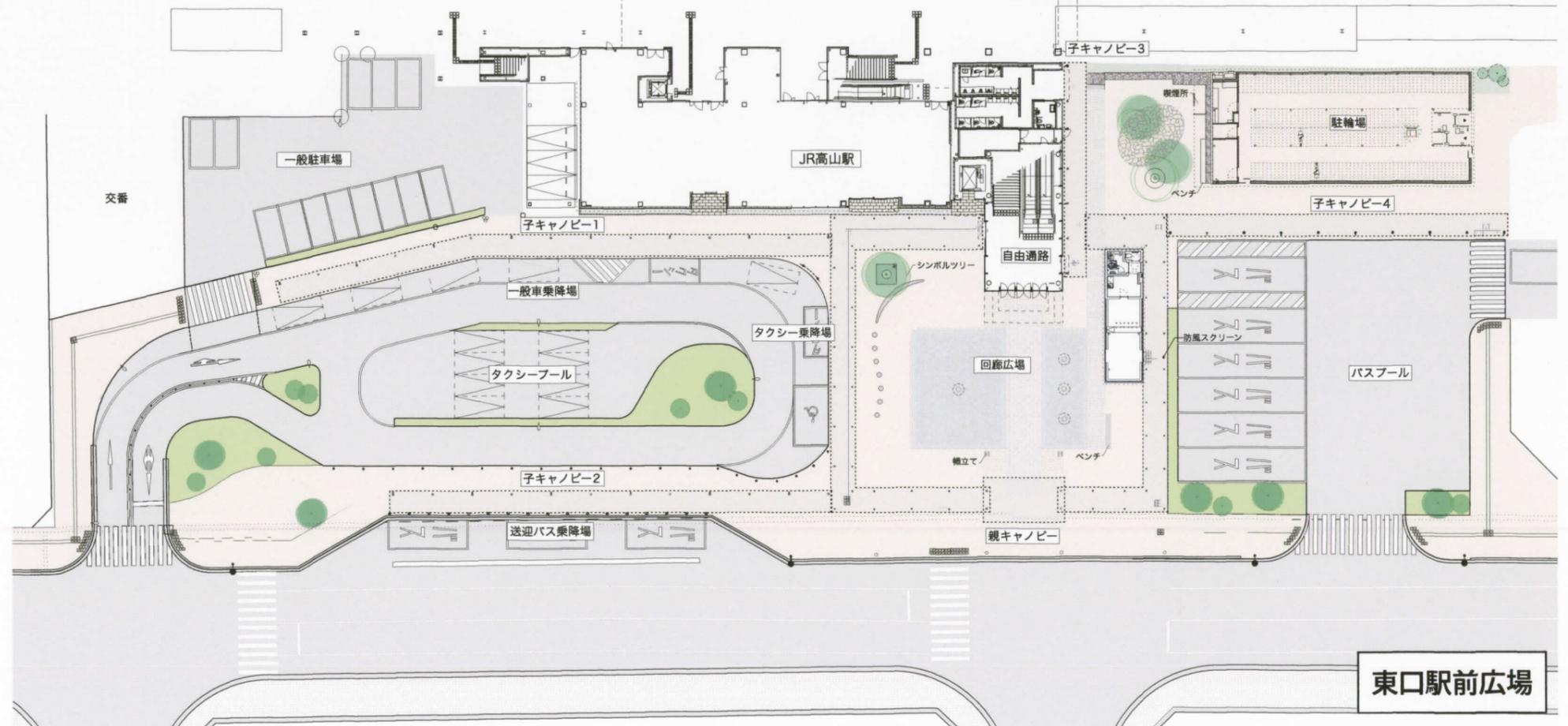


西口駅前広場概要

- 面積
約3,400㎡
- 交通機能
タクシー:乗降各1台 待機 5台
自家用車:乗降 5台 (福祉用含む)
送迎バス:乗降 5台 (待機2台含む)
路線バス:乗降 1台 (停留所)

東口駅前広場概要

- 面積
約5,500㎡
- 交通機能
タクシー:乗降各1台 待機 9台
自家用車:乗降 5台 (福祉用含む)
送迎バス:乗降 3台
路線バス:降車および待機 6台
- その他機能
トイレ (自由通路下)
交番 (広場南側)
観光案内所
駐輪場、駐車場



東口駅前広場

広場の設え

高山らしさを直接的に表現するのではなく、高山の精神性のようなものを表現し、他都市とは違うというメッセージを発信できればと考えています。

もてなしを意識した回廊広場、夏の暑さを意識した水盤、冬の積雪を意識した動線（回廊から広場内各所へアクセス）、照明（行灯のような案内所）、舗装（土間のような風情をもって広がるイメージ）、どれもこの土地ならではの設えとしています。表現の仕方は地元素材や技術の活用し、大都市とは違う表現、素材感を持たせることを考えています。

■植栽方針

基本的に高山市に自生する樹木を植栽します。自生する樹木の採用は、市民の方にとって見覚えのある、高山らしい駅前広場空間の創出に寄与します。また、四季の変化を感じられるよう、ヤマモミジやカツラ等の落葉樹も積極的に採用します。

■広場使用素材イメージ

広場の随所に地場の素材を使用する計画とします。また、旧駅舎で供用開始時から使われていたタイルを広場内で再利用することで、昔の記憶を継承する計画とします。



東口駅前広場イメージ



西口駅前広場イメージ



旧駅舎のタイル



旧駅舎のタイル



駐輪場前スペース石垣 / 位山石



駐輪場前スペース石垣 / 位山石



水盤 / 位山石 (小割)



延段 / 岩滝石

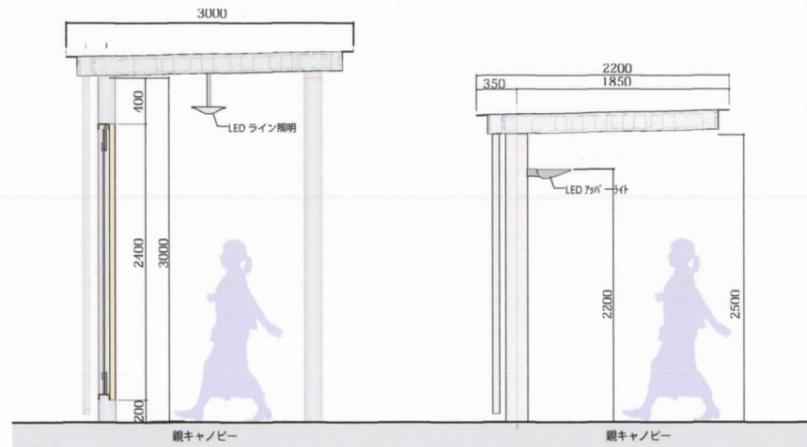


歩道舗装 / 洗出舗装



水盤のイメージ

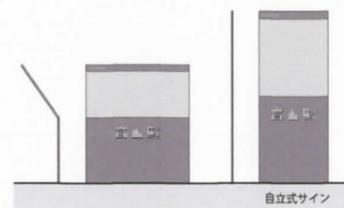
■キャノピー



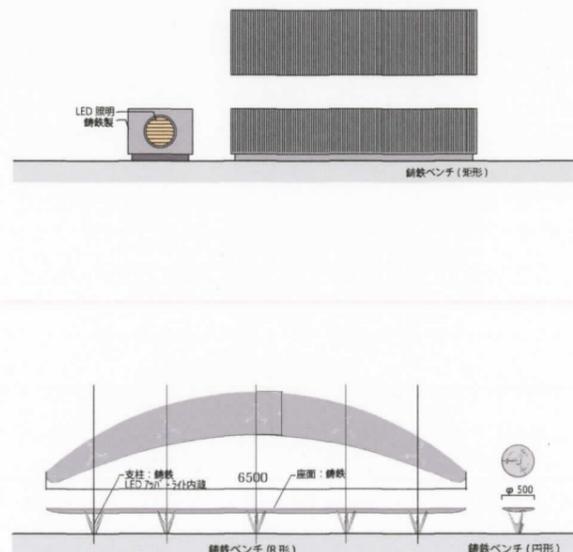
■サイン



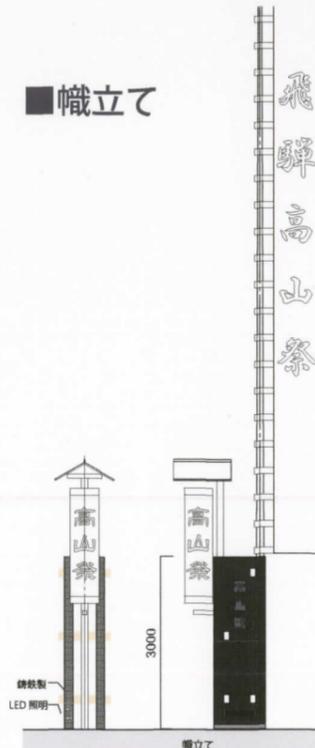
旧駅舎開業時に使用されていた「高山駅」のサインを部分的に使用します。



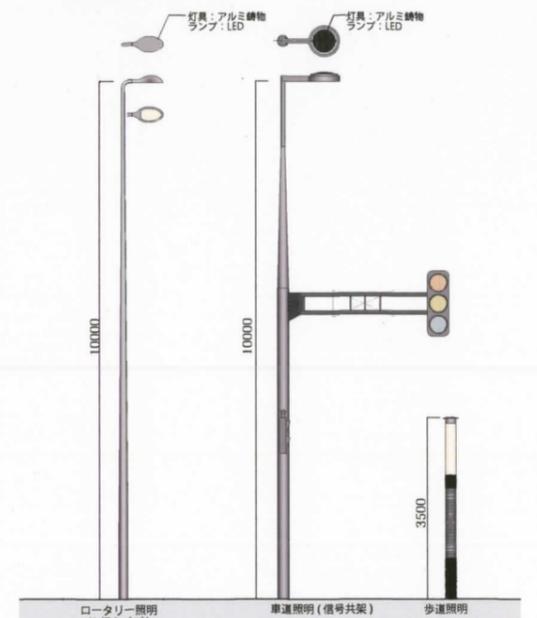
■ベンチ



■幟立て



■照明



自由通路内装の整備(案)について

■自由通路の位置づけ

今回整備をする新駅舎は橋上駅となることから、東西の駅前広場を繋ぐ自由通路が整備されます。この高山駅舎と一体となる自由通路は、来訪者にとって高山に来てはじめて降り立つ場所となることから、高山の印象に大きく影響します。高山の街へ繰り出すスタート地点、もてなし空間との前提のもと、街への期待感を持たせるように整備する必要があります。改札正面に展望スペースを設け、街を見ることができるようになっているのも、街への期待感を持たせるための1つの設えです。

同時に市民にとっては毎日使う場所となるため、来訪者目線からだけではなく、市民の日常目線からも考える必要があると考えます。

■整備方針

自由通路整備の前提として、「高山らしさ」を表現することを念頭に置きます。そのひとつとして、自由通路の壁面に高山祭の屋台に関する展示を計画します。屋台は高山らしさの象徴であり、高山の伝統技術の結集であることから、「高山らしさ」を表現するという計画にふさわしいものと考えます。

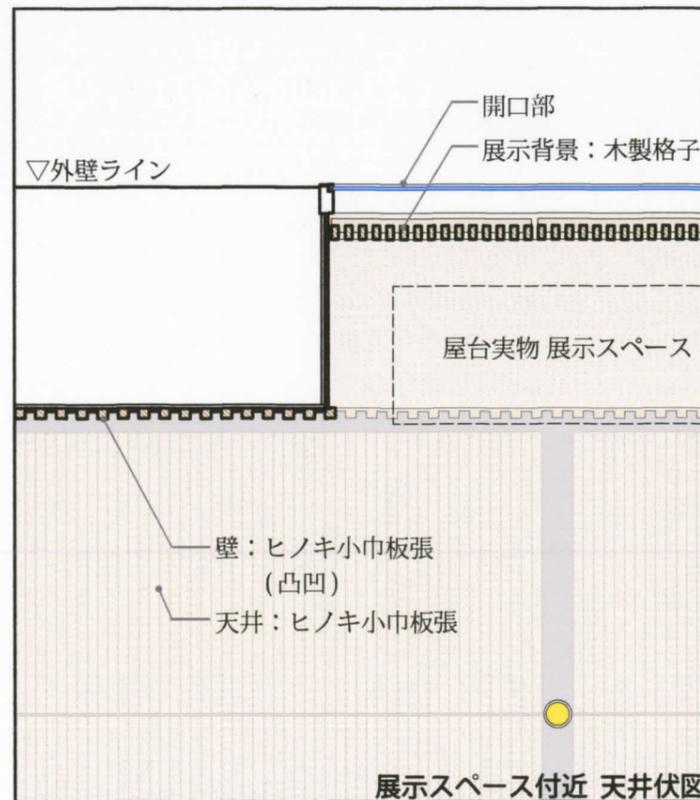
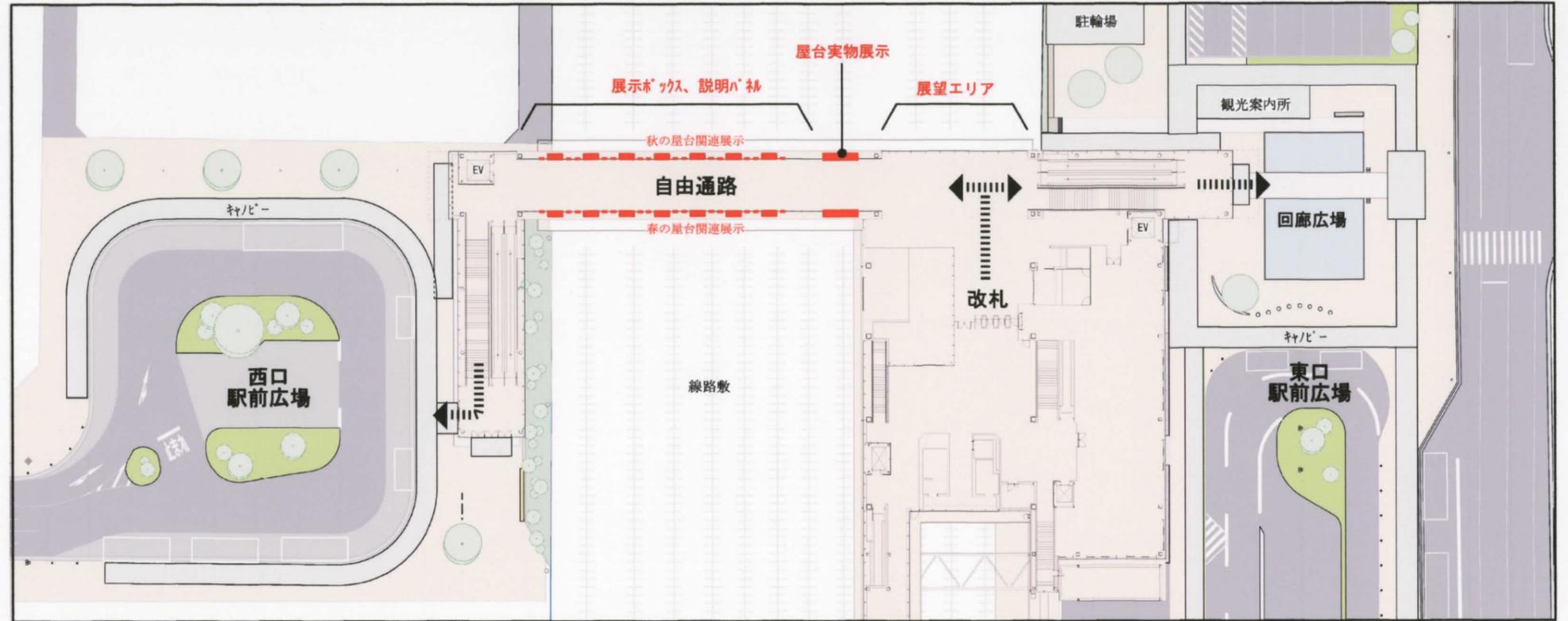
同時にこの展示により、伝統技術を使い、触れ、広めることを意図しています。また、毎日この自由通路を使う市民がうんざりしてしまうような展示とにならないよう配慮をした展示とします。

■展示の位置づけ

市内には既に多くの展示施設があることから、博物館的な展示をする必要はないと考えます。自由通路という性質を活かし、普段展示を見に行かない人でも日常的に目にする、日常に密着した展示であり、観光客にとっては高山をより知りたくするようなPRにもなる展示となると考えています。

■自由通路の内装

高山市の地場の木材(ヒノキ)を使い内装を木質化する計画とします。小巾の板張りを基本とし、繊細な印象の空間をつくりだします。壁面は格子をイメージし、木の小巾板の厚みを交互にかえることで凸凹のついた壁面をつくりだします。



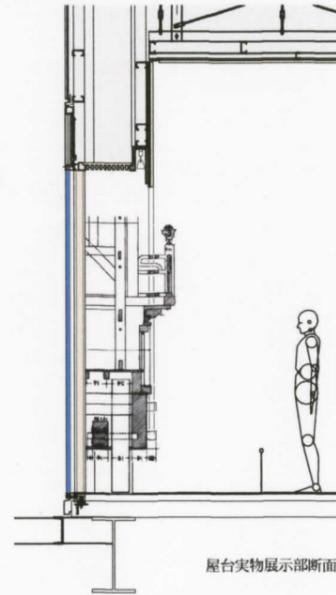
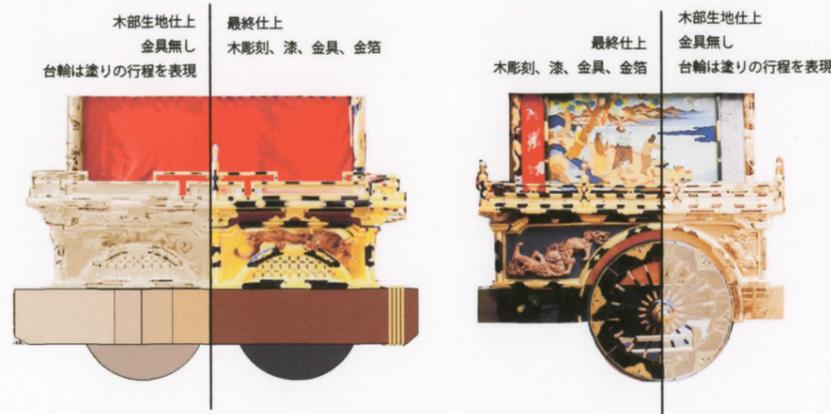
展示物の整備方針

1. 屋台実物展示

→屋台の実物(下段+中段)を製作

春、秋、代表的なものを東西に各一台展示。

仕上は完成する箇所、下地のままで見せる箇所を両方とも表現し、実際の屋台では見られない製作プロセスが分かるものとする。その割合はたとえば、半分を完成、半分をプロセス表現する。(下地、塗装プロセス、金箔、金具取付など。)

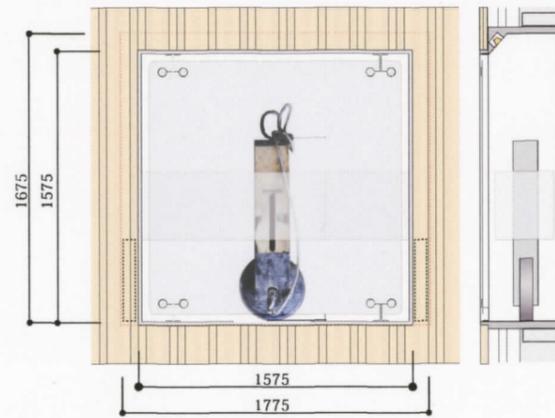


2. 展示ボックス

→屋台パーツ等の展示

春・秋で各7箇所、計14箇所設置する。大きさは1.5m角程度を基本とし、統一感を持たせる。上面、側面にはLEDのライン照明を組み込み、三面から展示物を照射する。

- ・各屋台組からの協力による展示物を優先し、屋台修理の道具などの展示も行う。
- ・基本的に新規製作は行わず、屋台の修理等で取り替えられた屋台の部品等を展示する。
- ・季節やイベント時のタイミング、また将来、追加交換を行う事を可能とする。
- ・展示ケースの仕様はスチール製、背面は取付ボード+テキスタイル等
- ・盗難・接触防止については、前面を部分的にカバーすることで対応する。

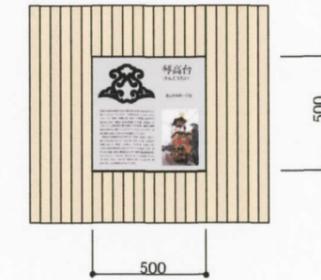


3. 説明パネル

→屋台パーツ等の展示

全屋台組が把握出来るよう、市内にある25台の屋台の台紋と写真、特徴を紹介する。展示物とは必ずしもリンクしない。東西とも展示に関する説明パネルを1枚ずつ設置。

パネル素材は真鍮のエッチング+陶板など価値を感じる素材とする。



表示例：台紋と屋台特徴を紹介

